

# ひ ぜ も へ 南

## 浅草ガイド

鳥越・寿 佳き店多し ③1

御案内役・原 房 男氏  
文とカット・原 え 芳 枝さん  
つ お

原 さて、この浅草ガイドも、い

よいよ南の方、浅草橋の駅の近くにやつて参りました。今回

は、地元柳橋一丁目の、原房男・芳枝御夫婦に、柳橋方面の御案内役をお願い致しました……(同姓ですので、房男・芳枝と記させて頂き、失礼致します)。

房男 よろしくお願ひします。そ

うですね、今日は天気も良いし、三人で、一寸散歩しましょう(と言う事で、柳橋をぐるっと一回り、という事になりました)。

芳枝 先ず、浅草橋の駅の周りで

すが、人形屋さんが多いですよ、この頃特に増えました。

房男 12月には羽子板を飾り、正

月からすぐに3月のひな人形、そしてそれが終ると5月へと、季節の先取りの町ですね。

原 さて、浅草橋のたもとですが、

原房男氏

芳枝さん



ここに、浅草見附跡がありますね。

芳枝 そうです。ここは、赤坂見附や四谷見附と同じで、ここは奥州街道へ通行する人の番所があったそうです。

房男 さて、左右を見て下さい。

いい風景でしょう!

原 いやー! 舟宿が立ち並び、屋形船なんかも沢山浮かんでいて、情趣ありますね。流石! 柳橋ですね。



房男 ここで一軒、舟宿と佃煮の

「小松屋」さんを御案内させて頂きましょう（と言われる上空に、数羽、鷗が飛んで行きました）。

原 ここにも橋がありますか？

房男（笑）、これが柳橋です。そして、こちらが花柳界。最も昔程ではないのですが、それでも随分、情緒のある店が今でも多いです。では、そんな

粹筋のお客さんも、一寸つまみに行っている、寿司の「梅寿司」さんを、二軒目の御案内店としましょう。

芳枝 一寸、小休止しましょう。

私が良い店を知っていますから、珈琲の「加否道」さん（こちらで面白いモノを頼みましたが、次頁のお楽しみ）

房男 さて、いよいよ、我家の方へ戻って来ましたが、ここが

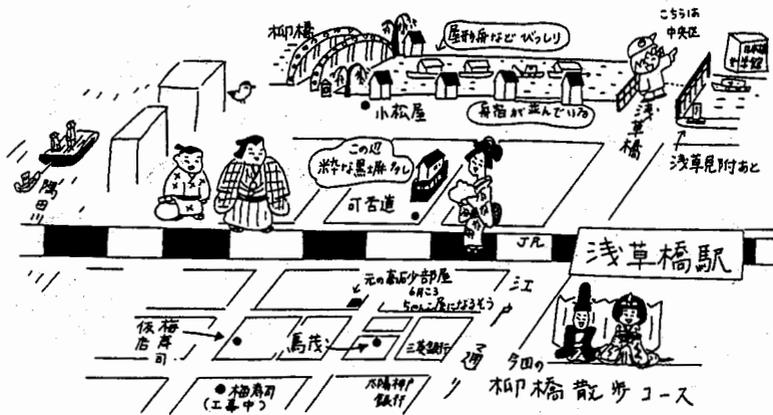
元・高砂部屋です。よく我家の前も、お相撲さんが歩いていました。

芳枝 近くに「鳥茂」さんという

おいしいヤキトリ屋さんがありますが、よくお使いの取的さんが、つまみ食いしながら通りましたね（笑）。

房男 まだまだ、柳橋には良いお

店が多いですが、次の方へ、バトンタッチしましょう。原 有難うございました。



季節の佃煮

柳ばし  
舟宿 小松屋

☎八五一―二七八三  
フナヤサ

柳橋のたもとに、情趣ある小松屋さんの小さなお店があります。こうして昔から舟宿と、佃煮をやっている家が多かったのだそうです。「季節の味覚を、その季節だけ売る」のがモットーと言う御主人の、これからの季節のお推めは、

3月  
は旬  
とし  
て、  
生の  
り佃  
煮(甘  
さお  
がえ  
りま



す。550円。かき佃煮1300円。4月より9月下旬までは、手むきあさり

(一粒一粒、手でむいて、その風味をのがさない様に、生姜を入れ、さっぱりと煮上げてある)がお推め、入れものも粹な曲げもの入りで、嬉しいですね。その他、一口あなご(江戸前の活けあなごを独特の製法で特にやわらかく煮てある)150円等お推め。

☆営業時間 ㊟9時半〜㊟6時  
☆定休日 日祭日

寿司

柳ばし 梅寿司

☎八五一―一六八二

「うちは普通の寿司屋ですよ」と、御主人。創業は昭和2年。現在は飯店で、9月頃完成の予定で工事中。シャリをネタで包む様な、にぎり、中140円〜特上250円。看板

の、ちらし、は並1100円、特上2000円、流石に旨いですね(一つ一つネットに対し、手間の掛っているのを感じます)。甘いものの苦手な人は、甘ぬきと言うと、甘いものを抜いてくれ嬉しいですね。宴会も可、現在の店では15人まで。町がこれからも時代時代によって変わっていても、良き時代の意気と味を大切に、残していってくれるお店だと思います。

梅寿司さん



☆営業時間 ㊟11時〜㊟10時  
(2時〜5時休み)

☆定休日 毎週水曜日

和風珈琲

# 可否道

☎八六一一九七二〇

出前用 ☎八五一―四五三八

さて、前頁のお二人に誘われて入った可否道さんですが、先ず、その骨董屋さんの

様な店内に、びっくり。古ランプ・氷の冷蔵庫・炭取り籠…うーん、懐かしいですね。可否道おれん

どを頼みました570円。カップは一



可否道さん

可否道さん

人一人違い、洒落た有田焼(希望者には売ってくれます)。「ここは、インテリアも好いですが、昨日来た人には、同じ器を出さないとか。男の人には、男用のスプーンを出すとかの心使いが嬉しいのよ」と芳枝さん。茶碗むし容器入りの、コーヒーゼリー。のりをはさんだ、のりトーストなどお推め。平河町・新宿にもお店有り。

☆営業時間 ⑨9時〜⑩8時

(土曜は⑩10時〜⑩7時)

☆定休日 日祭日

やきとり

# 鳥茂

☎八五一―一六七七

気のせいか、サラリーマン風の男女に混って、随分と体格の良いお客さんが多いように感じます。私も小錦関か水戸泉関になったつもりで? お酒とヤキトリを頼み

ます。朝潮関や富士桜関の表彰状や相撲の錦絵やカレンダーや、番付などを見ながら、コップ酒です(お酒は大きなヤカンから注がれ、豪快です)。ヤキトリは、白、ひな皮、なんこつ、ねぎ間、つくね、はつ、たん、レバー等皆、一人前400円(混合というのもあり、これも400円と嬉しいですよ)。うーん、ただ者ではない旨さです。ブレンズ

(脳ミソ)、玉

(御想像の通り)

というのまであり、びっくり。

営業時間

5時〜

11時

☆定休日

日祭日と

第三土曜



鳥茂さん

トキワ座公演「バーボンストリート」です。記者? の特権で、お稽古中にも失礼しました。「いる」、立原さんがいます。楽屋(と言っても、一寸、洗面所を改造した様などころ)へ、おじやます。

「変った?」と千穂さん(化粧して変わったでしょうということです)、あまり変った、と言うのも失礼? だし:そこで、パチリ、と撮った写真が左です。

舞台では、菌田憲一とデキシークィングスがデキシークィング・ジャズの演奏です(デキシークィングは楽しくなります)、小坂一也さん、柳沢慎一さん、佐々木功さん、橋達也さん:千穂さんは歌手の役です。向うの(英語なので題を忘れました)唄を、そして蘇州夜曲(これは覚えていました)を唄います(SKDの、流石さすが、歌姫です)。

この公演は、評判よくて、続篇は、小松政夫さんが出て(これはパート3?)しました。

千穂さんの楽屋におじやますと、何と楽屋の壁に、画のコピー(つまり左図)を貼ってくれてはありますか。おまけに「ここに貼って毎日、見るのよ」(嬉しいですね)と言ってくれたのでした。その後、この立原千穂さんを追って(追っかけですね)、新宿へ、渋谷へ? (一人ではありません、前ページのお二人とです)出掛けましたが、最近、お便りがありません。私もこの本のヒロインのお一人ですから、是非、又、戻って、あの力強い歌声を聞きたいものです。

マイ・ラバー・カム・バック・トロー・ミー。てなもんです。

さてこの月に「柳ばし」の「食べある記」も終りでした。最後の「亀清楼」さんでは、お重のものを頂きました(おいしかったです)。そして、お世話になりました、「可否道」さんに報告を兼ね、珈琲を頂きに行きますと、何と桜の花の満開という絵柄のコーヒークップで出してくれたのでした(このお店は、お客さんや、その時の気持ちに合わせて、カップを選んでくれるのでした)。

# 浅草最遊の君のジャズ

66 ジャズの町

原えつお

浅草  
バーボンストリートに  
出演するというので  
稽古を見せて  
いただき  
梁屋まで  
おじゃましました



演奏は  
サ園田実一と  
デーシーキングス



4/23より  
5/6まで

是非みて  
下さいね!

浅草らしい  
ミュージカルです  
立原千穂さん



小坂一也さん  
柳沢慎一さん  
佐々木功さん  
橋達也さん  
他出演



お問い合わせは. 03(842)0333 トキワ座まで。

↙ 木本(秀)さん



◎ 柳通りの  
尾張さんにて

高城美輝さん →

「高城さんを  
囲む会にて」

↑ 茂木さん

尾張さんには  
「食べある記」で  
大変お世話に  
なりました。



◎ トキワ座  
無台  
にて

浅草バーボンストリートで熱唱する  
立原千穂さん

◎ 湯島駅前にて

→  
子供たちに、あちこち  
フリクラを貼られました。



◎ 赤提灯さんに頼まれ描かせて  
いた、ただ、ただ、看板です

◎ ( 皆さん 行ってみて  
下さい )



◎ 下町セタ  
まつりに

↑  
うちのヨメさんです

さて、「食べある記」が一応、中又なかじめとなり、ほっとするやら、淋しいやらでしたが、私なりに、次の企画アイデアを考えたのでした。

それは、その月の（浅草の）、行事や見どころなどがわかる、イラストまっぶを、月ごとにかこう、というアイデアでした（しかし、それは実は大変な事だと知るのでした）。

第一回は「六月のお祭りまっぶ」というのを作りました（五月の中旬に、三社まつりがありますが、それ以後も浅草の町は、お祭りが相次ぎ、六月もお祭りだらけなのです）。

それから、「歌舞伎まっぶ」とか「落語まっぶ」「芸能史」「北斎浮世絵まっぶ」「七福神まっぶ」「荷風まっぶ」「文学まっぶ」「浅草悪人まっぶ」とか「動物まっぶ」「むかし話まっぶ」「消暑まっぶ」「夕涼みまっぶ」等かき続けました。（どこかで、この内、何点か、載せさせて頂く事にします）。

さてこのとき（左図）は、その「歌舞伎まっぶ」を描いている時に、丁度、寿三丁目に用があつて見掛け、初め、その変わった建物にびっくりし、そばに近づいてみると、「歌舞伎座」とか「明治座」とか彫つてあり、その上部（左図）に、「宗吾殿」とあるではないですか、これは何か、（この画の向かつて左側の事務所？）で、お聞きしましたところ、左の様なお話しで、パンフレットもくれたのでした。

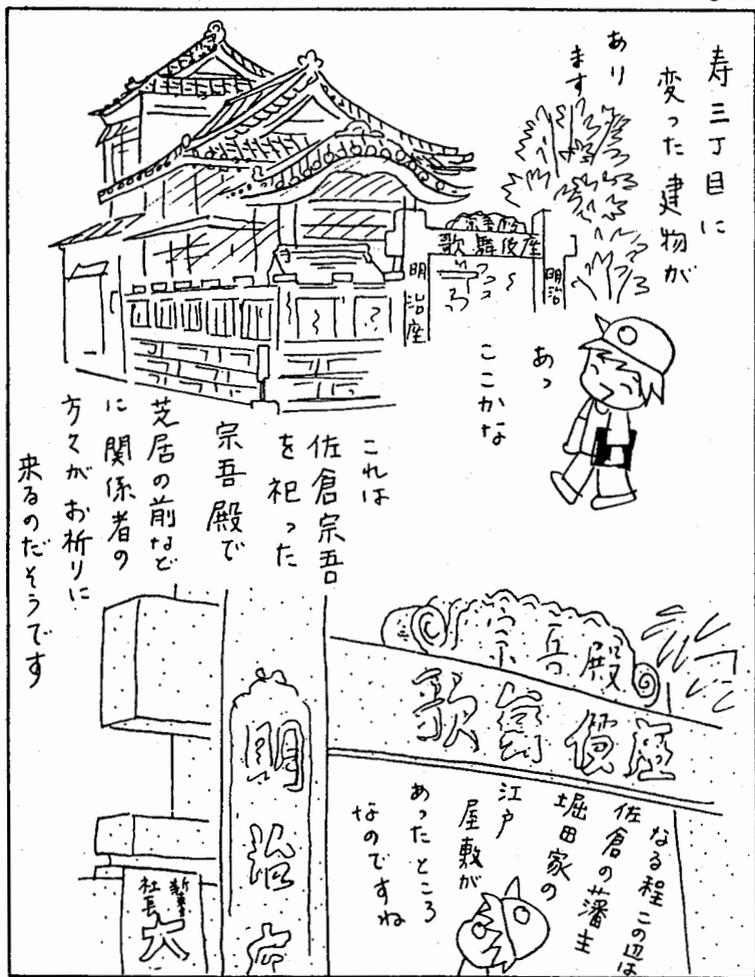
この頃「歌舞伎」で「佐倉宗吾郎」とあまり演りませんが（昨秋珍しくありました）、人気演目の一つなのです。

この後しばらくして、子供と京成で一寸遠いけれど、宗吾堂へ行つて来ました（この日は暑かったのと、宗吾堂が一寸暗い（内容が）ので、一寸参りました）。

この頃、かっぱ橋通りの「下町七夕まつり」で、前述のピエロをやりました。私のは不気味？ でしたが、他の人や、特に子供たちのは可愛いものでした。

# 君の浅草普女歩

⑥ 芝居の町 その十 原えつお



☆ 中村甚力三郎さんや歌舞伎座門前さん、今輔さん、米丸さん、  
又保田万太郎さんなどの名前があります。

さて左図の頃は「浅草芸能まつぶ」を描いていました。浅草の芸能の歴史は古いものだし、そして華やかなものです。「猿若三座」「奥山の大道芸」「六区での歌舞伎や新派の興行」「玉乗り」「かつぼれ」「安木節」「女義太夫」「浅草オペラ」に「エノケン」「ロッパ」「シミキン」：かき切れません（このページが終わってしまいます）。

それにしても思う事は、六区の事です。サッカー少年の歓声も良いけれど、もう一寸なんとかならないですかねー、フジテレビがお台場へ移りましたが、一局くらい、浅草に来ないかなーと、いつそ思うのです。

この頃、又、浅草バーボンストリートを見に行っています（この時は、前述のお二人と宮本さんも御一緒）。

又、この頃、今村恒美先生をモデルにされた、井口勢津子著（井口さんにもよく「三条」さんで、お会いしていました）「佐倉の泣きん子」（丘書房）を読ませて頂きました。

先生は、小さい頃より絵が好きだったので、仏壇屋の小僧を振り出しに、和菓子屋への奉公、そして行商と苦勞され、その後、縁有り、堀口秀叢・山川秀峰先生に師事し、挿絵画家として（人形佐七捕物帖や桃太郎侍などです）売れっ子になっていくのですが、画に魅入られた者の手のふるえが、わかる様でした。（後日、先生は別の手のふるえで、右手が使えなくなり、左手で描かれる様になるのですが）。

この少し前、私が好きだった、早野凡平さんが亡くなりました（新聞の記事には、同じくこの頃亡くなられた、池波正太郎先生の方が大きくて、凡平さんは小さくありました）、大山商店街の近くのお寺へ、あれれ、やっている様子がありません、しかも、松本家とあります（私は時間を間違えたのでした、そして凡平さんの本名が、松本さんである事を知ったのでした）凡平さんを最後に見たのは、小島貞二先生の会でした：あの時、お腹がぶつくり出ていたのを思い出しました。

# 六六君の浅草散歩

⑦ 笑いの町 その5 地球の上に 朝がくる 原えつお



我家を片づけていきましたら  
こーゆうレコードが  
出てきました

地球の上の朝がくる  
CHIKYU NO VENI  
ASA GA KURU  
川田義雄とシルバース  
川田義雄と  
あきれたホーイズ

- 地球の上に朝がくる
- 浪曲セントルイスブルース
- 王宮カルメシ
- 浪曲タイナ野兵衛
- 四人の突撃
- 浪曲アキレタ

昭和12年5月  
花月劇場にて  
活躍 (32頁)  
見て下さい(の)  
ハワイアンズの  
益田キートンの  
坊屋三郎  
ホパイの

アキレタ  
ボーイズ  
二枚目  
新アキレタ  
ホーイズと、ミルクブラ  
ガースに分衣し

地球の上には  
ミルクの時の曲なのですな。

有木三太

3x3  
=9  
山茶花究

虎造のリーダー  
川田義雄

かんなん  
かんに  
かんに  
かんに  
かんに  
かんに

又、バクダットへの空爆が始まりました。私は、バクダッドと言えば、シンドバットの大冒険とか、千夜一夜物語とかで、今でも「夢の町」というイメージなんですが、トマホークとか、砂漠の狐作戦とか、スカッドミサイルとか、パトリエットとか、嫌ですね。これも夢物語の続きなのでしょうか。さてこの頃、湾岸戦争が勃発ぼつぱつしまして、世の中、騒然そうぜんとしていました。

伝法院通りの、地口行灯ぢぐちあんどんは以前から感心していたのですが、ここは一寸、私も、地口ぢぐちと洒落しゃれてみる事にしました。この後、この地口行灯の絵が変わる毎に、なるべく、その当時の国際情勢こくさいせいせいは、一寸大げさですが）を盛り込もうと思っています。

NHKのニュースが予定より30分早く放映され、イラクで日本人が500人軟禁された、と言うニュース（しかも、その中には親戚筋の人もいたのには、びっくり）、平和ボケの日本人（特に私）には衝撃的なニュースであつたのでした。

この頃、エイケンの鷺巣さぎすさんという人が、時々、我家を訪れてくれる様になっていたのですが、「知人の逗子とんぼさんを紹介してあげます」と言われるのでした。

田原町の仁丹塔の下の珈琲店で、もうお一人、木村さん（この人は漫画新聞を出している人でした）と一杯（コーヒーで）！

この後しばらくした頃、銀座で今村先生の会があり、又、とんぼさんと再会、親切な人だなと思つた、と日記にあります。

又、鷺巣さんにも、その後、色々お世話になる事になる（講談社のパーティに連れて行って頂いたり、美容学校で、アニメーションについての、御講義をして頂いたり、朝霧さんのパーティーでお会いしたり）のでした。

エイケンは、テレビの「サザエ」さんを作っている（他に、鉄人28号・8マン・サスケなども）会社なのでした。

おせき 農女歩 人質 透に

72 土世口テ行火丁

原えつお



こうやうのを 土世口(じぐち)テ行火丁(あんどん)と言うのだそうです。

さて、そもそもこの本を作りたと思ったのは、第一に、より多くの方に、この左ページを見て欲しかったからです。

それは何故かと言いますと……この頃「沢正」さんで、よく会うお客さんで、横田さんという人がいました。沢正さんに来る他のお客さんも大体そうですが、この人も正体不明で、私と同じ位の年（少し先輩でしたか）で、三波春夫の「大利根無情」や、ちあきなおみの、「赤とんぼ」など、仲々味のある唄い方をする人でした。

この人が、「須田貞明」<sup>すだていめい</sup>って知っていますか。奥山の弁士塚にその名が刻まれてあり、黒澤明監督の兄君だと言うのです。

横田さんは、実は黒研（黒澤明研究会の略）の会員で、この事（黒澤監督のお兄さんが浅草で弁士をしていた事）を多くの人に知ってもらいたい。と言うのでした。

これをかいた時、横田さんは「どんな反響があるか楽しみだ」と、喜んでくれたのですが、あまり反響はありませんでした。

その後、実は、横田さんは画家（油絵）で何回か、氏の出品作を見に行く事になりました。

その絵は人物画で、しかも全員がこちらを向いているのです。絵の人物が皆、こちらを見ているのです。どうも、見る絵なのでなく、「見られている」向こう側からこちらを見ているという感じで、奇妙な画でした。

その後、横田さんは、何処へ行ったのか連絡が取れなくなりました。あの絵の中の人物の一人になって、こちら側の世の中を凝視しているのではないか等と思うのです。

この本はせめて黒澤明監督が生きているうちに作りたいと思っていたのですが、監督も亡くなってしまいました。

# 君のあさき 散歩



今月の井士  
原えつあ

73 映画井士塚

組んでいるとい  
世界  
黒澤明監督ですが、

何と、浅草で井士を  
聞いていたという話を  
聞きました。

大作  
「夢」を  
発表したと  
思っただう  
もう  
次回作  
「八月の  
狂詩曲」  
に取り

徳川夢声 玉駒 露花  
熊岡元堂  
はじの

当時の井士  
の名前が  
いっしょに  
いるが

↑ この辺に黒澤明監督の兄  
須田貞明の名前が  
あります ↓

西参道入口をばにある  
井士塚です

時代の流れ  
トーキー化に  
勝てなかったと  
いうわけです

黒研(黒澤明研究会)の  
横田氏によると

あの昭和七年の井士の  
ストーリーキを指導していた  
のだそうです。

大勝館の  
主任井士を  
やって  
あり

☆ 写真・塩坂仁雄氏 提供

さて左図は、東京大空襲の被害の大きさを伝えるモニュメント、三筋一丁目にあり、うちの子とそ  
の友達二人を連れて、見に行つた時のものです。

理由は、ともあれ、多国籍軍のバクダッド空爆は、この東京大空襲の記憶とダブリ（まだ生まれて  
いませんでしたが）嫌なものでした。この三人と、この後、この近くにある、台東図書館へ行きまし  
たが、ここには郷土資料室というものもあり、浅草・上野などを調べる時は、大変、便利な所です。

イラクが、この頃：テルアビブ（イスラエル）に、ミサイルを打ち込んだ。幸い、化学兵器でなか  
ったので、ケガ人が7人出ただけだった。しかし、イスラエルは報復に出ようとした（がアメリカが  
必死で押さえた）、全くこの辺は、TVゲームの様だ（この争いは、きつとTVゲームになると、売れ  
るぞ！、不遜ながら、そう思いました全く不遜ですね）TVは、いつ湾岸のニュースが入っても大  
丈夫のように、夜中も、各局とも、音楽など流している、何チャンネルか知らないが、フ氏とブ氏の  
写真を写し、バロック音楽をかけている。フ氏の方が、立派に見えるのは、なぜだろう。

ポポ君と、まつぶ（北斎浮世絵まつぶです）を、アド下町に置いて、雷門方面に向かうと、織田編  
集長とばったり。さすがに風邪気味で徹夜したのは、こたえたらしく昨日買った、荷風の「断腸亭日  
乗」の中の、浅草に関する所に傍線を引く、気づいた事は…

一、正月必ず、柳北氏などの墓参りに行く  
二、気に入ったお店は週に何回でも行く

三、自分が関係した女性を一欄表にしている（これには、びっくり）

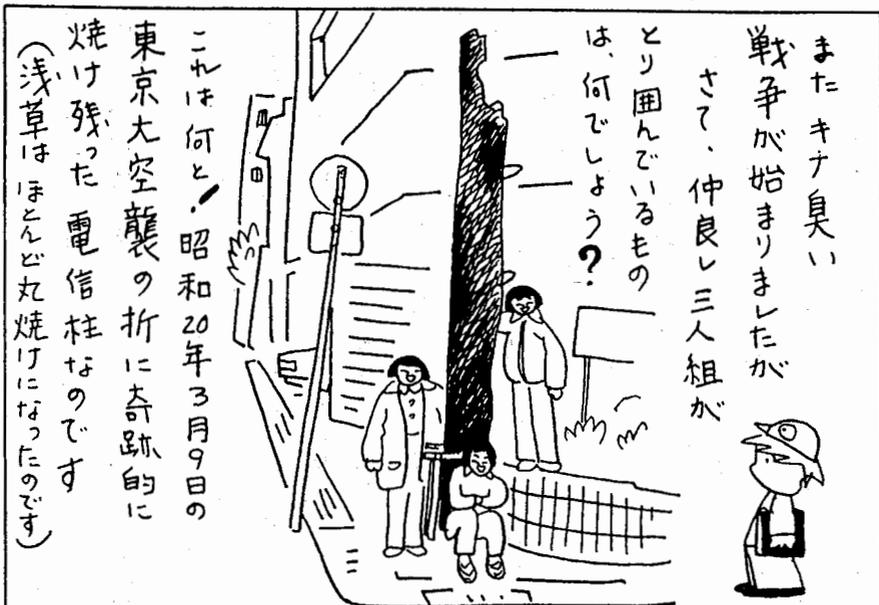
「荷風まつぶ」（まつぶとは言えないかな）を、かこうとしていた頃でした。

荷風散人が、全財産を入れた（銀行を信用していなかったのでしょうか）、バッグを持った姿を見たと言  
う、近所の人達が多いのには、一寸びっくりしました。

# 六◎六◎君の浅草散歩

㊦ 戦争反対

原えつお



これは何と、昭和20年3月9日の  
東京大空襲の折に奇跡的に  
焼け残った電信柱なのです  
(浅草はほとんど丸焼けになったのです)

またキナ臭い  
戦争が始まりましたが  
さて、仲良し三人組が  
とり囲んでいるものは、  
何でしょう？

三筋一丁目にて

それにしては  
戦争は  
嫌いですね



左は、そのはず前にある  
お稲荷さんです、付近に  
伝決木病かはやった時、この  
周りだけ助かったのだそうで  
電信柱が焼け残ったのも  
そのためでしょうか

多国籍軍はハイテク部隊で、司令官も、体の大きさ（大きい人だ）の割に、超IQの人だと言う、（気に入らない）。

これに対し、イラク軍は、遂に紅海に石油を流す、という奇策をするのでした。

カンボジア内戦で、遺跡が壊されたり、今回の様に、動物たちに多大な迷惑をかけるとは、悲しい事ですね。

仲見世通りの「助六」さんには、江戸玩具が沢山ありますが、左図もその内の一つ「ずぼんぼ」です、この使い方の図は、宮尾しげをさんの漫画集を参考にしました。

イラクの戦争は、この中旬には、地上戦が本格的になりそうだが、長期化しそう、の記事あり。

この頃、小島功先生のパーティーがあり、出席者何と！ 900人の大パーティー、京の舞子さんや、バニーガールが居て、当の先生の目印に風船が浮かんでいるという風景、この中に朝丘雪路さんがいったり、秋山正太郎先生がいったり、サイトウタカオ先生がいったり、やなせたかし先生がいったり：（又、キリがありません）、その中に、私の先生の秋先生、金森先生に、今村先生もおられ（名簿で見つけたのです）、何とか、三先生と会えました。

この頃、気になるニュースがもう一つ：

TVでモンゴルの民主化の動きの番組をやっているが、何と！ 今まで禁止されていた、モンゴルの文字とモンゴル相撲と、ジンギスカンの授業が始まったと言う。（ノストルダムスのアンゴルモアの大王がよみがえる…とは、この事じゃないかと思ったら、寒気がした）、我々の時代は、なんとか戦争に巻き込まれず？ にいるが、子供達の時代は、どうなるだろうか。

こんな事を、色々考えさせられる頃でした。私が、フ氏のマネをして、鼻の下に、つけひげをつけたら：「チャップリンに似ているよ」と、子供達に笑われたのでした。

# 君の浅草散歩

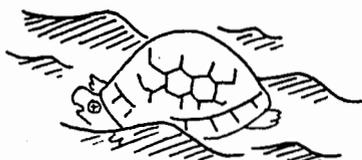
原えうお



## ⑩ 浅草面白グッズ 2. すいぼんお

不幸な戦争で  
海が汚され  
多くの動物達に  
迷惑を  
与え  
ましたか

下の桜は、江戸時代  
文政頃かう伝わっている  
「おぼんぼ」という  
玩具です  
ひずめにあたる所が  
しじみで出来ていて



隅田川が  
きれいだった  
頃を思い出して  
くれます。



仲良く  
みて下さい



こつやあ  
のですね

早く戦争が終って海がきれいに暮らしたいと思います。

さて左図は、可楽まつりの模様です。桜の花の季節でした。

潮江院はどこかな、と探しながら行きますと、山谷堀公園を、リバーサイド体育館側から入って、一寸行き、右側のお寺、もう、大勢の人が来ていました。何とか、その中を分けて座らせて頂きます。丁度、浮世亭写楽師匠の落語をやっていました。「一寸失礼します」と、背のいやに高い人が、私の右側に座るのでした。「あつ、小島先生!」、私はこの頃、今村先生や、特に、高田米造さんから「有遊会へ入ったら」と言われていたのですが、家の都合もあり、「三条」さんだけの会員(皆さんが勉強会が終つて、一杯するお店)で、だから、一寸、何と言つて良いか、困つた状態、その時、関係者の皆さんへ、見て頂こうと、左図のコピーを持っていたので、先生にお渡ししました。

それから、笑三師匠・夢楽師匠と続いて、落語を聞かせて頂いて(こうゆう所でお聞きするのも良いですね)。終了後、皆さんに少し遅れて表に出ましたら先程の笑三師匠と夢楽師匠が、演芸ホールの松倉社長と、桜の花が、風でチラホラ気持ち良さそうに降りかかる、土手の上を(何か、江戸か明治の落語家さんの様に見えたのでした)、ゆつたり歩いておりましたが、松倉社長が、私に気づいて両師匠に紹介してくれたのでした。これより少し前：湾岸戦争は：

地上戦に入り三日目、イラク軍は、クウェートよりの撤退を表明した、反面、ダーランに、スカッドミサイルを打ち込み、パトリエットが当たらず、米軍宿舎に命中、27人の米人が死んだ(イラク側から見れば、今まで一番の成果なのだ)：これからしばらくして戦争は終わつた。しかし、これだけ、多くの人々の目を釘づけにする、大スターはいないなと思うのでした。

さて、落語の事を書きましたので、次ページに、この頃かいた「落語まつぶ」を：

# 十六君の浅草散歩

笑いの町 5 可楽まつり



年より 浅草演芸ホールにて  
寄席の開祖  
初代及び歴代  
三笑亭可楽を  
記念する

可楽まつり  
が行なわ  
れます。

4月1日~10日

## 可楽まつり

主な出演者

- 三笑亭可楽
- 三笑亭又三
- 浮世亭字楽
- 三笑亭大糸
- 三笑亭苗丸
- 三笑亭夢木朗

浅草演芸ホール

四月三日 初代可楽の  
墓の見つかり  
ました今戸の  
潮江院で  
正后より可楽忌が  
催されます(入場無料)こもって  
どうぞ

小島貞二先生

山椒ほ小粒で  
ピリリと辛いのが  
ニヤレですわ

山生亭花聚  
といいましたか

初めは  
江戸に落語家  
という職業が  
この人におし  
生れ  
寄席というものを  
初めに作った  
人ാണ്です。

夢楽師匠

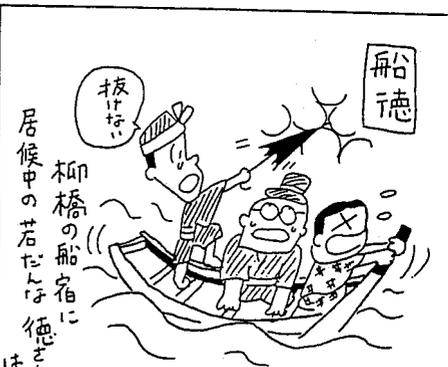
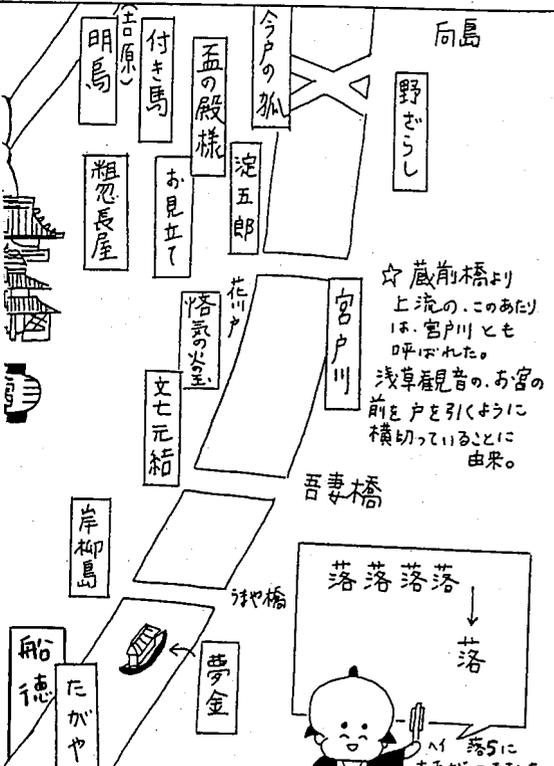


陰に...  
ものすじく...



おけき合にお願致します  
#落語マニアの「席をば」

平成2年10月

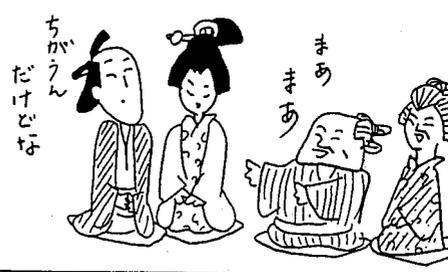


抜けな!  
居候甲の若旦那は徳さん



たがやー  
両国橋の橋の上: 駒形 今なら: 駒形 桜橋でしやうか

みやとがり  
宮戸川

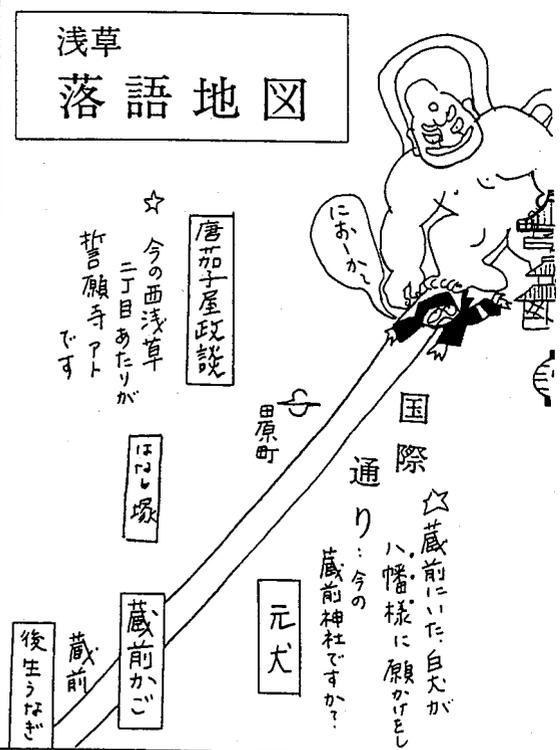


とうはすや  
唐茄子屋  
政談

舌原田んぼで売リ声の  
けいこをしてから  
哲言願寺長屋へ



浅草  
落語地図



吾妻橋を  
さしかかると  
☆ 右い男か  
身投げの  
寸前



文七元結

その他 元犬・今戸の狐  
明馬・向き馬  
等々 泥山 有りますね。  
五五の殿様

あたいくつ様  
でした。ああとほ  
浅草演芸  
ホールの方へ  
どうぞ



粗勿心長屋

観音様で  
行き倒れさせ

前から行こう〜)と書いていたのですが、小岩の「けいろくスナック」です(いえ本当は、一寸前に、新小岩に住む友人の、坂本君と、来た事があるのです…その時は、山田隆夫さんが、カラオケで唄っていて(用があるらしく、すぐ帰りまして)、残った、はたのぼるさんが、我々に良くしてくれました。「もうすぐ関ヤンも帰るから」との事で、しばらく、御主人の帰りを待ったのですが(その日は、谷幹さんと一杯やっていたらしく、会えませんでしたので、今回、この本のヒロインのお一人(うちの嫁さんです)と、やって来たのです、が、今度は、時間が早すぎて駄目でした、それでも従業員の方が、中を見せて下さる(嫁さんは初めてなので)と言うので、入れてもらい、カラオケをしているマネだけ、したところです。

室内には、「寅さん」のパネルが沢山ありました(敬六さんは、寅さんの、後の方の作品では「ポンシュー」として役が固定されましたが、前の方の作品では、まるでヒッチコックの映画(ヒッチコック監督は、自分の作品のどこかに、一寸出ているのです)の様に、敬六さんが、現われるのです(一作目も出ています…さくらさんの結婚式の所です)。(あるときは、歯みがきをしている男)なんてえのものあり、寅さん映画の楽しみの一つです。

この頃、敬六さんのショーも(トキワ座)もちろん見に行きました。これが、トキワ座の、最期でした。さて、ここで、いつも敬六さんの歌う、「浅草の唄」を少し紹介させて頂きましょう。

♪強いばかりが 男じゃないと

いつか教えて くれた人

どこの どなたか知らないけれど

鳩といっしょに 唄ってた

ああ浅草の その唄を ♪

# おたくの浅草敬六



⑧1 けいらく スナック

原えつお



さて二二は  
国鉄総武線  
小岩駅です

先代の春日野理事長  
横綱析錦の出身地  
なので  
銅像が出来  
ました



いそまねる子?



さアヤの近くに 今月  
常盤座のトリを努める  
関敬六 劇団の関敬六  
さんの

スナック  
けいらく  
があります

日本橋へ行っても  
新宿へ行っても  
浅草く と 連呼の  
敬六さん 是非がんばって下さい

逗子とんぼさんです。

シミキン（清水金一）さんの弟子で、

そのシミキンさんから、油気を抜い

たようだ、と言われる

「僕は、スマートが好きです」と

良き東京の香りのする人だ

その、とんぼさんが、久しぶりに公演をする、と言うので、微力ながら、一寸、かかせて頂く事になりました（一杯飲みながら）場所は、花やしき裏にある、捕鯨船・河野さんの所です。

「あ、どうも久しぶりです」と河野さん、（河野さんは、元、デン助劇団に居られた人で、とんぼさんは、浅草の先輩なのです）

今度やるお芝居の内容をお聞きし、「うーん、こんな感じでしょうか」と、かいたのが、左図です（何と！ この本のヒロインのお一人、立原千穂さんも出ています）。

天国から舞い戻った青年が大活躍するというお話です（有遊会のマドンナ・進藤敬子さんも出ていました：この人も、この本のヒロインのお一人です：（何て気が多いのでしょうか、私は）。

菊水通りの赤提灯・町田さんの2Fで、本読みの稽古です。前に「浅草バーボンストリート」で踊っていた人達のそばに座ったのですが、彼女達は、トキワ座の二階席に誰かがいる様な気配がしたと言うのでした（稽古中の話でしょうか）、それも一人じゃなく：私にはそれは、トキワ座で活躍した幾多の芸人達の霊が、優しく見守ってくれていた、という風に、聞こえたのでした。

この公演の受付には、鷺巣さんの奥さんが勤めていたそうです（後日、お聞きしました）、そして「左図」は、公演中、ときわホールの壁？ に貼り付けてくれていたのでした。

この後、とんぼさんには、今村先生の会や浅草文庫講演会（後でかきます）にて、大変お世話になる事になるのでした。

# 六〇六君の浅草散歩

⑫ 逗子とんぼ劇団



平成三年度  
文化庁芸術祭参加  
ポドビルコメディア  
天国と地獄

が  
あり  
ます

共演は  
天野新二・立原千穂  
結島優子・沢田健  
いせ八平の比呂さん

ホクは  
スマートなのが  
好きですな

← 逗子とんぼ  
さん

10月18日(金)より  
20日(日)まで  
雷5656会館  
ときわホールにて

第10回公演  
**逗子とんぼ劇団**

お聞き  
しました

歌あり  
涙あり

「逗子とんぼ  
さん」

ホクは  
スマートなのが  
好きですな

← 逗子とんぼ  
さん





さて遂に、トキワ座・浅草松竹・東京クラブの三階が閉館し、取り壊される事となりました。

前にも記しましたが、この時私は、東京クラブに通い、遂に閉館になった日から発熱し、しばらく寝込んでしまいました。

この時、最初に、ポポ君…を連載をするきっかけを作ってくれた、武政さんが我家に来ていて、東京クラブの最後を見てもらいました（氏は映画ファンなので）。

横の壁にあつた看板を少し、実は、頂いなこうと思つて一寸手にかけましたら、氏にひき止められ、こう言われました。

「それを、ひいきの引き倒し」と言うのですよ。

なる程ね、これがひいきのひき倒しか…妙に感心する私でした。

裏に回りますと、ヨシカミさんのオレンジの光が妙に優しくその壁を照らしていて、シャンソン聞こえる、パリの裏町の様に思えたのでした。

今は少年サッカー場で、子供たちの歓声とボールの音が、こだまします、しかしこれだけは言えません、浅草は大切なものを、又、なくした。

益田喜頓さんの、その長い足が見れなくなつたのは、これより前だったのかも知れませんが、喜頓さんは、生れ故郷の函館に帰つたのです。そして故郷の人に、大きな拍手を持つて、招えられたのです。浅草の町に、一つの言葉を残して…それは「浅草の町は、もう、私を引き留めるものが、何もなくなつた」と、いうものでした。

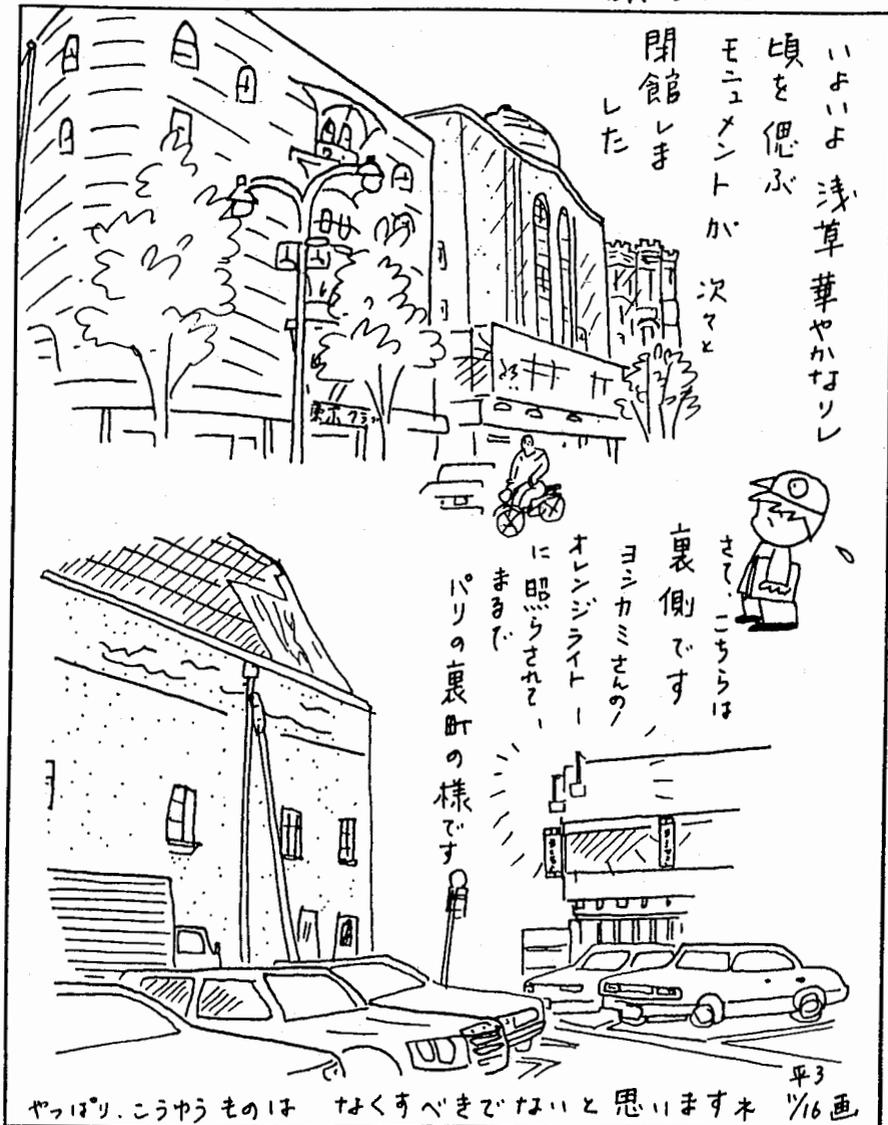
喜頓さんの住んでいた、庭のある、その家は、今はマンションになって、もうそこに昔、芸人の多く住んでいたその町に、最後まで住んでいた人の家がどこだったのか、もうわからないようになりました。

浅草は、これでほとんどなくなるものが、なくなりました。

# 十◎十◎君の浅草散女歩

⑧4 さよなら三館

原えつお



猿年なので、何か、浅草にそれに因ちなんだものがないかなー、と考えたら…「猿之助横丁」が、さつと浮かびました、浅草には、この他に「源水横丁」…大道芸の松井源水が住んでいたので、「ちん横通り」…これは、すき焼きの、ちんやさんの横の通りというわけ（こちらは、今もあります）なんてえのがあります、いいですね。（特に、横丁なんてないかな）。

それで左図となつたわけです。猿之助横丁は、言問通りから千束通りを行つて、一寸左に入る所ですが、この頃、随分多くの芸人さんが、浅草に住んでいたのでですね。一寸前に、若山富三郎さん・勝新さんのお父さんの葬儀が、浅草見番で行なわれたでしょ。お父さんの、杵屋勝東治さんも、この辺に住んでいたのでですね。あ、そうだ、東八郎さん、この人も千束通りに居ましたっけ、忘れてすみません、その前にはうちのそば（西浅草）にいたらしく、「よつ、親父さん久しぶり」と、国際通りで声を掛けられたよと、父が言っていた事がありました。

東八郎さん（以下東八さんと記します）は、どこでも評判よくて、「三条」さんでも「東八さんがいね」、裏の飲み屋さんで会つた人も「東八さんはいい人だよ」という声を随分、聞いたのでした。ところが…

その日の夕方、私は千束通りの中程にあるビルの二階におりました（業界の集まりで）、すると、ピポピポと救急車がやって来まして…「あれ、あすこは、東八郎さんの家だよ」「どなたか具合が悪いのかな」と、皆で話しておりましたが…それは、その家の当主を運んでいったのでした。

そして、東八さんはあっけなく死んでしまったのでした。

東八さんに乗せた霊柩車は、浅草の町を大きく回つて斎場へ向かったという事でした。

私は残念ながら、東八さんと話す機会は、ありませんでした。

# 六六君の浅草散歩



## 85 猿之助横丁



**猿**  
 と云えは  
 スーパー歌舞伎  
 猿之助さん  
 市川猿之助さん  
 まさに猿の如き大活躍



**猿**  
 本年は  
 年ですな  
 三社様境内ですが  
 初代市川猿公翁  
 の句碑があり  
 孫国子に  
 三代目猿之助を  
 譲り：とあり  
 これが今の猿之助さん  
 ですね  
 として  
 明治二十二年浅草  
 千束二丁目の生れ  
 とあり、そして  
 住んでいたのですな  
 今も、ひさご通りから  
 千束通りに入って  
 一丁行った左側に  
**猿之助横丁**という  
 石碑があります

☆さてここは  
 三社様境内ですが  
 初代市川猿公翁  
 の句碑があり  
 孫国子に  
 三代目猿之助を  
 譲り：とあり  
 これが今の猿之助さん  
 ですね  
 として  
 明治二十二年浅草  
 千束二丁目の生れ  
 とあり、そして  
 住んでいたのですな  
 今も、ひさご通りから  
 千束通りに入って  
 一丁行った左側に  
**猿之助横丁**という  
 石碑があります



ここに  
住んで  
いたんだ

土也元の人にも愛されていたのですな  
 こんは横丁 今もないかな

この頃、桜橋付近に、カモメが群れ飛ぶようになりました、(いいな)、早速子供を連れて見に行きました(左図は、うちの子です、スミマセン)(二人は：いや三人は夢中です)。観音さまにハトが飛び立つ様も良いものですが、これも良いな。

凧を持って来て、飛ばします(こんなの久しぶりだな)、浅草には、こうゆう所もあるのが嬉しくなるのでした。

この頃、織田編集長は、屋形舟に一寸関係する事になりました。対岸の言問団子さんの所が、船着き場です(この船には、この後、何回か：熊沢南水さんの朗読の会、岡本宮ふじ師匠の新内の会・今村先生を偲ぶ会など乗せて頂く事になるのでした)。

又、この頃、元、SKDの、高城<sup>たかじょう</sup>さん(やはり、この本のヒロインのお一人：あまり多用すると、信用されませんか：です)、とアド下町で、よくお会い出来る事になったのでした(原稿を届ける楽しみが増えたのでした)。

この頃：いや、年一月は「浅香光代劇団」へ行くのを恒例? としている(沢正さんと劇団の若手の人達と良く会うので)のですが、この時は「森の石松」だったのかな? 新国劇とも違うし、大衆演劇とも違った、浅香さんのお芝居です。明るくて、笑えて、泣けて、第一、愛敬があります(失礼?)。毎年来ていたので、いつか忘れましたが、「田端義夫」さんが、ゲスト出演された時がありました(カッコ良かったデス)、クレイジーキャッツの安田伸さんを見たり、坊屋三郎さん(こちらは、浅香さんと、夫君の、世志凡太さんと談笑されていました)を見たりしました。後日、この世志凡太さんと野上真果という人と「沢正」さんで「浅草時代劇学園」の事で一杯させてもらう事になるのでした。一時、足を悪くされた様で、舞台姿も、ハラハラ見ましたが、身体に気をつけてがんばって下さい：浅香光代様へ。



君の

86 カモメのいる町

浅草

散女



カモメのいる町に  
 あこがれていました  
 ところがある人から  
 隅田川に行つて  
 ごらんよと言われ  
 桜橋に行つてみて  
 びっくり(二百羽は  
 いますね)  
 浅草は  
 カモメのいる町だったので  
 嬉しくなりました



※ 暖たかくなる季節になると来ないそうですから  
 寒いうちの日中に 御散歩下さい。

浅草と東武電車は古いつき合いです、しかし、浅草駅は、当初、今の浅草松屋のところではなく、しかも対岸の、墨田区に、浅草駅があつて（川を越えてくるのは、大変だったのでしようか）、その後、川を越えた、今の所を「浅草雷門駅」と言つたそうで、意外でした（この工事現場の様子が一寸、川端康成著の「浅草紅団」に出ており（後日の「浅草文庫講演会で、小林高寿先生より講義して頂いた時の絵がありますので、この本のもう少し後のページになりますますが載せさせていただきますので、その辺もご注目下さい）。

東武博物館のある、東向島は、昔「たまのい」といひまして永井荷風先生の「濯東綺譚」や、滝田ゆうさんの「寺島町綺譚」などで有名ですね。一寸歩くと今その名残りの様な建物があります（私は、こうゆう所を歩くのが好きなのです。

この月、今村先生が、かつば村の新年会に南玉師を連れてきました（みす乃家南玉師登場です）。この頃、「北齋浮世絵まつぶ」に続き、「小林清親まつぶ」に挑戦しました。清親は主に、明治初期の浮世絵師で、又、今の漫画の先祖とも言える、「ポンチ絵」も、よくかいた人で、私は歴史上の人物でも最も気になる人でしたが、丁度、古本屋で末娘という人の書いた本を見つけ、その人となり、転居の様子など（この辺は北齋に似ています）を知り、余計気に入りました（朴訥で、野心もなく、口数の少ない人だったそうです）、それに、晩年の清親に会つた人の感想もあり、木下本太郎や金子光晴（気になるお二人です、しかも、金子氏は、近年まで、ご存命でした）（この大詩人達が清親と関係があつたとは何んだらう）、そして、清親氏が急に、歴史上の人物でなく、手を伸ばせば届く所に居る様な気がしたのでした。

皆さんにも、この、「小林清親」という人を知って頂きたいので、次頁に、その画を、載せさせていただきますと思います。

# 十〇十〇君の浅草散歩



原えつお

## ⑧ 東武線 浅草雷門駅?



# 明治の浮世絵師

# 小林清親

# 浅草あっぱ

ひょんな事から氏の経歴を見たう

浅草もあちこちに住んで  
たりして、大いに関係が  
ある事が、まっふにしました

わかり

By 原えつあ



★ 生れたところも、あちこちに転居する様も、そして墓所も？  
先非軍、葛飾北斎に似ていて  
不思議なものを感んじます。

★ こわそうな人と  
思いましたらう

それから風景画、さし絵  
ポンチ絵と大活躍し  
大正 4年  
68才まで  
生きました

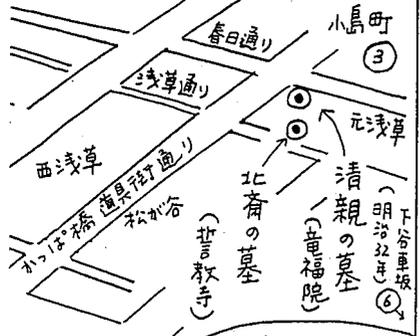


最初の妻と  
別れることに  
なったのは  
有名な話  
(34才)

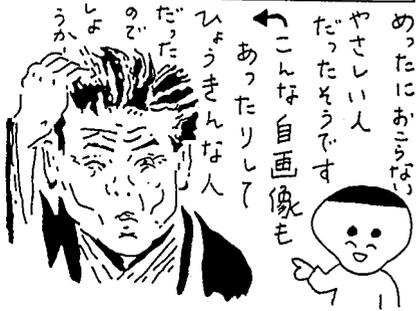


本当かな

← 彼の弟子  
井上安治が生れたところ  
おしくも早世する (明治19年)



清親に会った人の話 その①  
昭和 50年に亡くなった  
詩人の  
金子光晴氏は  
13才の時 初の？  
会った浅草や  
向島の百花園  
など 歩いた



原えつあ 台東正西浅草 2-25-13

河鍋曉斎や  
チャールズ  
ワグマン  
ホリ  
画も  
学が  
(27、28才)



新東京の  
風景を描き  
一躍  
画名高まる  
(29才)  
光線画と  
称す

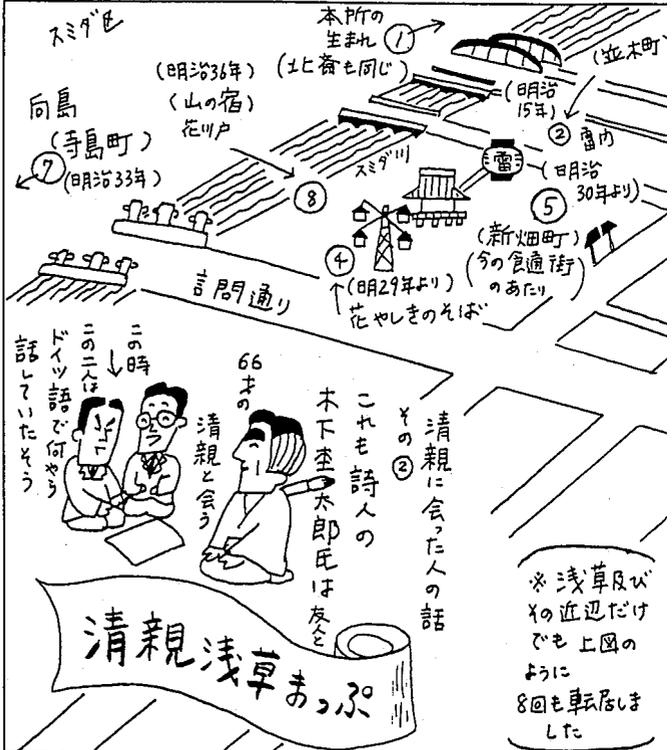
明治  
14年。  
両国の大火を  
スケッチしていたら  
自分の家もやけていて



幕府崩壊  
のあと  
生活のため  
剣の達人  
神原健吉と  
全国を  
廻る(24才頃)



テカくて  
強そうに見える  
のこ...ただ  
立っているという  
役です



清親に会った人の話  
その②  
これも詩人の  
木下奎木郎氏に友を  
66才の  
清親と会う  
二の二は  
二の二は  
ドイツ語で何やら  
話していたよう

※浅草及び  
その近辺だけ  
でも上図の  
ように  
8回も転居しま  
した



上野の彰義隊の  
戦いも偵察に  
行ったがすぐ  
戻った

弘化四年  
(一九四七年)  
本所に  
首希臣  
の子として生まれる  
明治元年  
(21才)  
鳥羽伏見の  
戦いに参加  
身体はデカイ  
(六尺二寸  
あ、たと言う  
のですから、なはなんと約190センチ  
しかレヤットウの方は  
カラキシ駄目な方  
だったそうです



★  
画もそうですが  
経歴も面白い人なの  
一寸紹介しましょう

さて私は（一寸お話しが変わりますが）、以前、某製薬会社の販促員で、長野県の東四分の一（東信地区と言います）を担当していた頃がありました。

その一番、山梨県寄り「もう少し行くと、水戸の天狗党で有名な、和田峠です」の町（小海町）の日赤病院へも、よく行きました（成績は？）。

そのの院長先生（茂木<sup>もぎ</sup>という、お名前…、群馬に多いらしいとの事）が、色々とお話しをしているうち、私を浅草の人間と知ってこう言うのでした…。

「君は、アイノカワの親分<sup>ちやん</sup>って知っているかい」「え、知らない」「清水の次郎長みたいな人で」「私と同じ館林の人で」「その人が、浅草の濡れ仏を寄進したのだよ」「知らなかったら、今度帰ったら台座の所を見てごらん、ちゃんとそう彫<sup>う</sup>ってあるよ」と、言われたのでした。

それで、その時も、浅草へ帰った時、見たのですが、よく判りませんでした。

それで、今回、思いきって、館林へ行って見る事にしたのです（何と言っても現地へ行くのが一番でしょう）、それで、左の様な事まで判ったのでした。但し、アイノカワは、会の川でなく、合の川の様でした。この、高瀬仙右工門という人は、仲々の人物のようでした。

さて、この頃、東電の二階にある、浅草文庫にて、地元の方にお話をして頂く、という様な、講演会を聞きたい、という様なお話があり、森本村長と助役の私がお手伝いという様なお話があるのでした。

この後、私はその講演会の内容を、漫画でかくという事になるのですが、講師の先生の手配は大体、他の皆さんが手配して呉れたのでした。この講演会は、大体二月<sup>ふたつき</sup>に一回で行なわれ、何と！二十三回も続く事になり、私もその後も、各先生から色々お教え頂くという好運に恵まれたのでした。

# 浅草農女歩君の

## 88 二尊仏

原えつお



さる二の観音様の境内にある  
二尊仏（濡れ仏）について  
昔、ある  
お医者  
さんか  
「あれは館林の  
会の川の親分が造った  
んだ。清水の泥郎長みたい  
人が居たんだよ」と言われ  
台座を見たのですが、同じ  
館林の人ですが  
高瀬善兵衛  
という人が奇造し、その  
子孫の仙右エ門という人  
が修理し、とあるだけで  
ずうとと気になっており今回  
館林へ行ってみる  
事にしました



館林郷土事典  
よると仙右エ門という  
人は若り頃  
政五郎と言  
この人が  
会の川の  
親分と  
いうことが  
わかり  
胸のつかえ  
がおり  
ました  
(図書館へ  
行ったのです)  
館林郷土事典  
モゲンですネ  
館林駅です  
ところが館林にほ  
会の川というのがはく、この辺は不明です



さて、観連の橋本さんという方を中心に飯田さん。森本さん、そして私が、お手伝い、(そして、この頃の「浅草文庫」は村松さんと西川さんのお二人になっていました)という事で、「浅草文庫講演会」が発足しました。その記念すべき、第一回は、「浅草文庫」のある、合羽橋本通りのかっぱ寺・曹源寺の御隠居・久我義勇氏にお願いしました(その内容につきましては、次ページに載せさせていただきます)。

この左図で司会をしているのが、浅草かっぱ村々長の森本さんです。

この後、

第二回 びんざさら舞について  
(斉藤栄助氏)

第三回 浅草寺史話  
(清水谷孝尚師)

第四回 べらんめえ言葉あれこれ  
(横田 貢氏)

第五回 山東京伝と江戸てぬぐい  
(川上桂司氏)

第六回 花柳章太郎と浅草界限  
(絹川正巳氏)

第七回 神輿あれこれ  
(宮本芳宏氏)

第八回 矢先稻荷神社と新堀川  
(高島邦夫宮司)

第九回 久保田万太郎と浅草  
(阿木翁助氏)

第十回 並木俱樂部に來た芸人たち  
(松本敬三氏)

第十一回 お西さまについて  
(河野英男宮司)

第十二回 音について  
(都家歌六師)

第十三回 浅草軽演劇の黄金時代  
(吉村平吉氏)

そして、これらの各講師の先生方のお話しも、漫画で、

かかせて頂く事となりました。

# お茶の君の浅草散歩



⑨ 浅草文庫第一回講演会 原えお



さる四月二十一日

かつぼ橋通りにある

東京電力浅草サービス

ステーション 3F

(2Fに浅草文庫及び浅草

巧芸館がありますか)にて

第一回 浅草文庫講演会が

行われ

ました

あつ  
こた

記念すべき

第一回

地元

かつぼ

御隠居の

浅草今昔

という

お話し

でした

今后定期的に行われ

地元の古老の方々等にお話をし頂き、又それを収録。保存していこうというものでしょう

☆ 今回のお話し。面白いので P33~34に、かかせて頂きました。

→ これを、次ページに...

# (新堀川の話し)

今のかっぱ橋道具街の通りは  
新堀川と言いまして元は吉原  
のおぼろ下でやれが千束

田園から入谷田圃を通り二通り

へ流れてきました それほ

幅二箇位のドブで

舟の通るのを見た事か  
はいそうです、それも

大正の終りニう暗きよ

になつたやうです。

又、かっぱ寺

の裏には

蓮田が

あつて

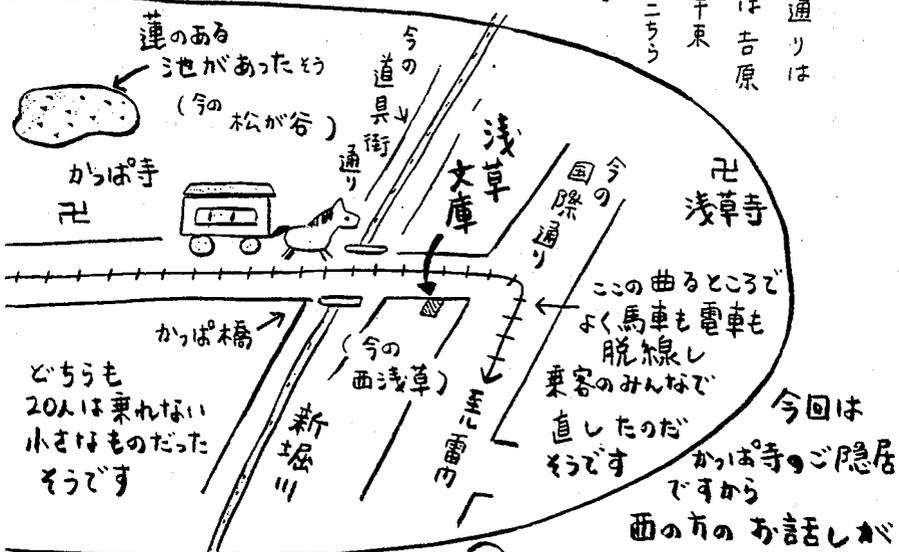
水車を

回して水を

入れかえるのが見えた



(不忍池みたいだったの  
でしようか)



# (かっぱ橋通りの話し)

車坂からこの通りは昔、御成り  
道と言いました。何故かと言うと  
將軍様が寛永寺に来て、帰りに  
観音様までお参りにくま道だった  
からです。

さてこの通りは、

日露戦争の終わった頃ですが、  
鉄道馬車が通っていた

(狭い軌道で単線、馬二頭  
で引いていたそう)

その後、電車か通ったそう



BY 原えつお

今月のまっさらは

# 浅草文庫

## 第1回講演会より



ようです。

講師 かつば寺 久我義勇 師

(かつば寺のいわれ)

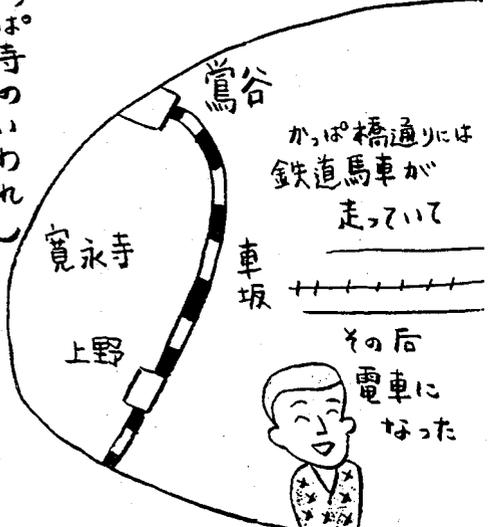
今から約150年前・文化年間・  
両谷羽を製造し財を成した  
合羽屋喜八(通称・川太郎)と  
いう人が居て、その財を水ほけ  
が悪く困っていた地元の人  
のために使おうと  
思って  
川の拡張工事を  
行ったのですが



↑ かつば寺にある喜八の墓  
河童と同じで  
頭の上には水ほけがある



それを昔子供たちに  
いじのうれていたところ  
を助けた事の  
ある  
河童が仲間をつれ  
手伝いに来て  
くれた  
といっています。



かつば橋通りには  
鉄道馬車が  
走っていて

その後  
電車に  
なった

です。かつば橋通りに、こうした  
乗り物が走っていたとは  
意外ですね。  
その後、道具街通りの方に  
三の輪から東京駅の方へ都電  
が走り(複線)便利しました  
が、今はこれも  
不便・です  
(全く、そう  
思っています)



耳だけ出る  
帽子をかぶる  
いたそうです。

面白いお話しと  
ありがとうございます  
又、次回も  
かかせて  
頂きたいと  
思います



第二回「浅草文庫講演会」は、びんざさら舞保存会会長の、斉藤さんでした。

観音さまが海より網得された頃の、素朴な農村風景を彷彿させてくれるもので、舞には、「種まき」「鳥馬口」(鳥馬とは益鳥のつくみの事だそうです)「蹴合」などで、農耕にもとづく所作を表わしているのだそうで(浅草は、そうゆう所だったのですね)。

それから今の三社まつりのお神輿は、もちろん、一之宮・二之宮・三之宮の三体ですが、七体あった頃もあったというお話しには、びっくりしました。

さて左ページは、江の島です。

参道商店街に、弁天小僧がありました。

おまけにその日、泊まった宿が、その有名な台詞「岩本院の稚児上り……」に出てくる宿だったので、びっくり、相当の悪童だった? 様ですね。そして、その作者が、浅草の仲見世通りのまん中あたりに住んでいたとは、ご存じ! ありませんでした。

私は白波ものは好きなのですが、カケ事は性分に合わないと言うか、勝負事に執着がないと言うか、競馬も殆どした事がなかったのですが、この頃、競馬場(川崎)に初めて行きました(それは一寸知り合いの娘のお父さんが騎手だったので、見に行つたのでした)、「松島ガンバレ、松島ガンバレ」と声援したのでしたが、ダメでしたが、競馬を見ながら、一杯やるのは仲々良いですね。

さてこの頃、全国のかっぱ連の集まる、「河童サミット」が、群馬であり、浅草かっぱ村の一員として出掛け、地元の考古学者、相沢忠洋さんの奥さん、千恵子さんを紹介されたり、又、ススキノのダリ事、遠藤隆平さん(この人から頂いた名刺を見てびっくり、何にしろ、ナイトサロン・ネグリジャン、ゲイバー・ミスターマダム、熟女カフェー・さくら川、などとあるのですから、びっくり)。後日このお二人にもお世話になるのです。

# 六六君の浅草散歩

① 黙阿弥の町

原えつあ



一寸用があり 江の島へ行き  
ましたら  
二んぽのがありました

この  
有知母(百浪五人男)  
弁天小僧の台詞に

江の島の岩本院の稚児より

とありますが、その岩本院は、今は  
岩本楼という旅館になり、弁天小僧が  
稚児の時、悪さをすると必死められた  
という、土内岸を改造したという

洞窟風呂  
にも

入りました

仲見世 商店街  
町会事務所跡にある  
旧宅跡の碑 ←

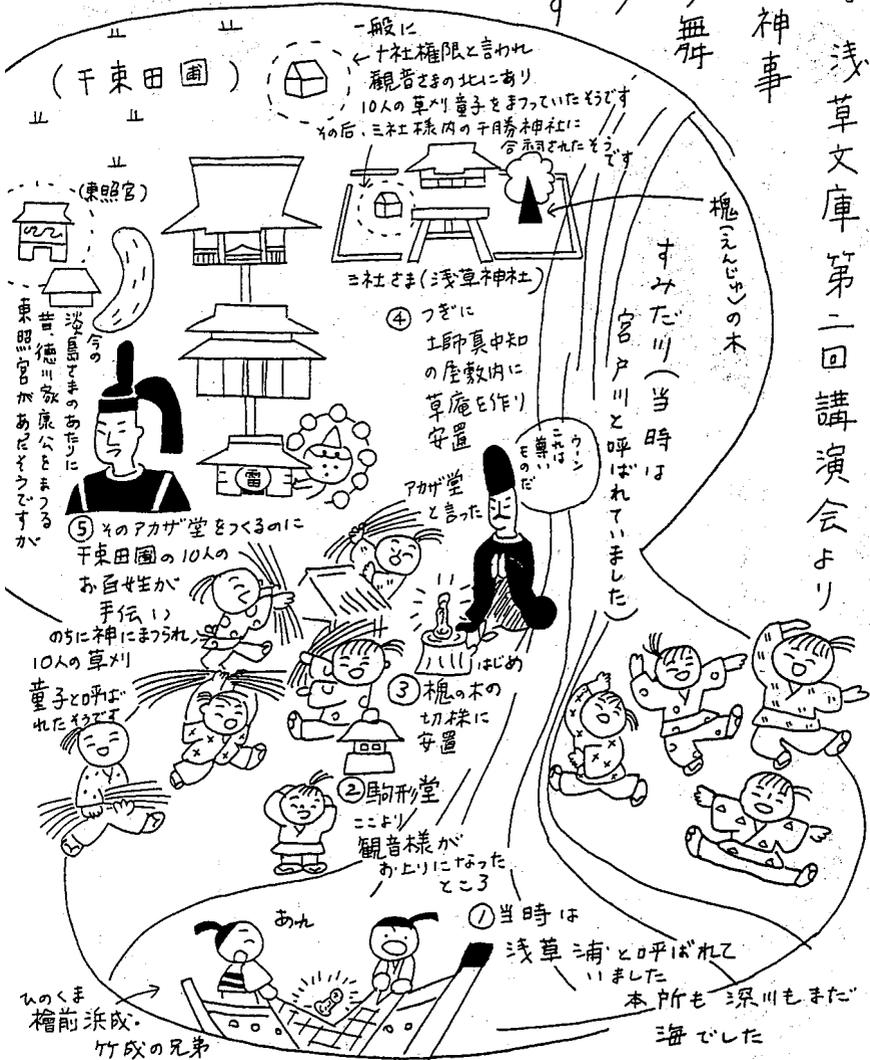
とこうで、作者の  
河竹黙阿弥は  
30才から約40年間  
浅草に住んで活躍しました

代表作は他に、「三人吉三」「河内山」などがあります

# 演会より

## 会長 齋藤栄助氏

さて今回は 浅草文庫 第二回講演会より  
 浅草神社神事  
 びんざさう舞  
 についての  
 お話です



(干束田園)

一般に  
 ←十社権限と言われ  
 観音さまの北にあり  
 10人の草刈童子をまつていたとす  
 4の后、三社工本殿内の干束神社に  
 合祀されたとす

榎(えんじゅん)の木

すみだ川(当時)は  
 宮戸川と呼ばれていました

ニ社さま(浅草神社)

④ つぎに  
 土師真中知  
 の屋敷内に  
 草庵を作り  
 安置

アカガ堂  
 と名付

⑤ そのアカガ堂をつくるのに  
 干束田園の10人の  
 お百姓が  
 手伝い  
 のちに神にまつられ

③ 榎の木  
 の切株に  
 安置

② 駒形堂  
 ニより  
 観音様が  
 あ上りにまつた  
 ところ

① 当時は  
 浅草海と呼ばれて  
 いました  
 本所も深川もまた  
 海でした

櫓前浜成  
 竹成の兄弟

東照宮が  
 あらゆる  
 昔徳川家康公まつる

(東照宮)



草刈  
 のん

10人の草刈  
 童子と呼ば  
 れた

あれ

# 浅草文庫第二回講

講師 びんざさら舞保存会

今から千三六十四年前  
すはわら推古天皇三十六年  
浅草浦で漢をしていた

二人の漢師さんにより  
浅草の観音様が網得  
され、土地の知識人

土師真中知(はじのあたえ  
わかとも)の屋敷  
内に小さな草庵  
を作り、それを  
アカガ堂と言ったのですが  
そこに 観立目様を

御安置したのですが  
その時、千束田園を  
中心とした10人の  
お百姓さんが手伝ったの  
だそうです。

焼失後、三社さまに  
合祀され、それで今の  
三社の建物も、家光公の参道  
に作るものだよとす



その10人のお百姓さんほ、後に  
10人の草刈り立里子として神にまつら  
れたのですが、観音さま出現のあり  
お祝いとして無解いを無解ったのだそうです  
これがびんざさら舞の起原  
なのだそうです。

「肩やろえ」  
「馬馬口」  
「種まき」  
「踏合」が  
獅子舞もあるのが  
特長です

「馬馬口は益馬」  
(つべみのこと)

元々お百姓さん  
の舞いからです  
農耕にもとかく  
所作を表わして  
いるのですね

